

## 「大隈重信と佐賀」知られざる大隈 その②

令和3年1月10日（日）、大隈重信侯100回忌を迎えるにあたり、5回にわたって大隈重信侯に関する紹介文を連載します。



万延元（1860）年、日米修好通商条約の批准に随行した咸臨丸でアメリカに渡った八太郎の先輩の小出千之助が、アメ

リカの社会を観察して、八太郎に「お前が今懸命に学んでいるオランダは、ヨーロッパでも小

国で、これからはきっと英国と米国の時代になる。しかもこの二国は同じ言葉を使用する。」ということを告げ、英語を勉強することを勧めました。八太郎は

早速英語の学べる環境を求めて長崎へ行き英語の学習を始めます。ここで出会った先生が、オランダ系アメリカ人の宣教師フルベッキでした。八太郎はここでアメリカ独立宣言や聖書などを読み、この英語を佐賀の若い藩士たちにも学ばせたいと考え

て、藩主鍋島直正なべしまなおまさの許可の下、長崎に致遠館ちえんかんという英語学校をつくることにしました。（続く）

（大隈重信記念館館長

江口直明えぐち なおあき）



▲致遠館跡石碑（長崎県長崎市）